



第15期
ヤングエグゼクティブ・プログラム
2024年度 開講

KAL

THE KYUSHU-ASIA INSTITUTE OF LEADERSHIP

【 プログラム趣旨 】

近年、激変する世界、未だ道筋の見えない様々な社会問題、毎年起こる大規模自然災害、DX化による産業構造の変化等、国内外を取り巻く環境は日々大きく変化しています。これらに順応するためには、**既存の価値観にとらわれない発想力、道なき道を切り拓く行動力のある真のリーダー**が求められます。

九州・アジア経営塾では、主幹プログラム（碧樹館プログラム）よりさらに若い世代を対象に本プログラムをスタートし、今年度15期目を迎えます。自分自身と向き合い、多角的な視点で議論を重ねながら、次世代を切り拓くリーダーに必要な志や知恵を教授するために、各界のトップランカーにご登壇頂きます。

【 チームビルディング 】

ヤングビジネスパーソンが社会や市場の変化に適応し、自社自組織の問題解決に取り組む為の継続型ワーク形式セッションを今年度も導入いたします。

講義によって知識や実践知が学べたことをもって満足したり、プログラム修了をもって満足することなく、体系化されたチームビルディングメソッドを用いて、互いに情報交換を重ねながら取組みを行います。インプットから実践まで試行錯誤を繰り返し、研修チームや職場で議論やインタビューを行いながら、成功体験を積み重ねていくことを習慣化します。最終的には、塾生自身が意識改革を行い、組織改革者の一人として成長します。最終セッション日には、集大成プレゼンテーションを公開します。

【 プログラムテーマ 】

“ 自らの殻を知り、破り、創造と実践へ ”

【 開講目的 】

① 「知らないことを知る」 ～無知の知を知る～

- ・次世代リーダーとしての学び方を学ぶ
- ・各界の経営者、プロフェッショナル講師から実践知を学ぶ

② 「私（個）から 私たちへ」 ～多様性を集合知へ～

- ・個の力を、Teamとして集合知へ包含する
- ・リーダー、フォロワーとしてのTeam Building を実践する

③ 「組織人として目標を定める」 ～学びを知恵に変え、知恵を行動へ変える～

- ・組織人として成長成果を組織へ還元（貢献）する
- ・自らのやりたいこと（will）を決意表明する

【 募集要項 】

1. 募集人員

① 定員 36名

- ・ 原則として1企業団体から2名を上限といたします。
- ・ グループ会社内で複数名派遣の場合は、企業毎にカウントいたします。
- ・ 個人で申込みを希望される場合は、事務局までお問合せください。

2. 想定する塾生像

- ① 自らの成長を求め、「課題」と「自覚」を持ち、積極的に臨める人財
- ② 自分事として捉えられ、努力を惜しまず「学びの場」に積極的に参画できる人財
- ③ 「学び」を現実に生かす「知恵」に変え、失敗を恐れず、実践できる人財

3. 開催日程等

- ① 2024年9月～2025年3月、延べ90時間受講いただきます。（具体的日程P.3 参照）
- ② 平日（午前9時30分～午後5時00分まで）の開催を基本とします。
- ③ 講師都合等により、開催日、開催時間、開催場所を変更する場合があります。

4. 対象者

- ① 将来の上級管理職、経営幹部として期待される人財
- ② 満38歳以下（今年度39歳になる1985年4月2日～1986年4月1日生まれまでの方）
- ③ 役職不問、MBA等の学位や資格等も問いません。

5. 修了の認定

- ① 全課程終了後、次の2つの条件を満たす塾生に修了証を授与
 - ・ セッションおよび寺子屋式リーダーシップ対話への70%以上の出席
 - ・ 各講義後のリフレクション・ペーパー、計画書（チームビルディング、自己成長）の提出

6. 受講料

- ① 60万円（消費税込）
- ② 教材費は、受講料に含まれています。
- ③ セッション日の移動費、昼食費等は含まれておりません。

【Googleフォーム】

7. 申込み予約方法（予約口数）

- ① 受講希望の場合は、Googleフォームより、入力をお願いいたします。
- ② 6月17日（月）～ 8月16日（金）までを募集期間といたします。
- ③ 予約枠36名に達し次第、募集終了いたします。（先着順）



8. 塾生選考

- ① 塾生選考は、8月30日（金）までに決定いただき、指定フォームへご入力ください。
なお、開講式以降の塾生変更は、プログラム構成上できかねますのでご了承ください。

9. 受講環境

- ① デジタルツール（SLACK、DROPBOX、電子メール等）を利用します。
- ② インターネット環境を各自で整備ください。

**開催場所
開催日程**

電気ビル共創館を基本とします。(別会場開催の場合、別途ご案内いたします。)

午前9時30分 ~ 午後5時00分を基本とします。

(登壇講師、テーマ、開催時間等は、8月下旬までにご案内いたします。)

第1回	9月26日 (木)	セッション 「リーダーシップの旅」 / 寺子屋式リーダーシップ対話 ※開講式
第2回	10月2日 (水)	セッション 「チームビルディング①」
第3回	10月3日 (木)	セッション 「チームビルディング②」
第4回	10月23日 (水)	セッション 「経営戦略基礎」
第5回	11月6日 (水)	寺子屋式リーダーシップ対話 / セッション「理念経営型リーダーシップ」
第6回	11月27日 (水)	寺子屋式リーダーシップ対話 / 寺子屋式リーダーシップ対話
第7回	12月11日 (水)	セッション 「チームビルディング③ 中間発表」
第8回	1月15日 (水)	寺子屋式リーダーシップ対話 / 寺子屋式リーダーシップ対話
第9回	1月29日 (水)	セッション 「アカウンティング」
第10回	1月30日 (木)	セッション 「マーケティング(ジョブ理論)」
第11回	2月12日 (水)	寺子屋式リーダーシップ対話 / セッション 「企業内起業家」
第12回	2月26日 (水)	セッション 「イノベーションの推進力学」
第13回	3月12日 (水)	セッション 「チームビルディング④ 最終発表」 ※修了式

受講環境

(セッション形式)



(寺子屋式リーダーシップ対話形式)



2023年度講師実績

セッション

「経営戦略基礎」

井上 潤吾 氏
株式会社ポストンコンサルティンググループ
マネージング・ディレクター&シニア・パート
ナー
福岡オフィス代表



「起業家のように企業で働く」

小杉 俊哉 氏
合同会社THS経営組織研究所 代表社員
慶應義塾大学 SFC研究所 上席所員・大学
院理工学研究科 非常勤講師
ビジネス・ブレイクスルー大学大学院 経営
学研究科 客員教授



「リーダーシップの旅」

隈本 直樹
九州・アジア経営塾
碧樹館プログラム
プログラム・ディレクター



「チームビルディング」

齋藤 秀樹 氏
株式会社アクションラーニングソリュー
ションズ
代表取締役



「理念経営型リーダーシ ップ」

田村 馨 氏
福岡大学商学部 教授



「財務会計 ～入門～」

西山 茂 氏
早稲田大学ビジネススクール 教授



実践「JOB 理論」～マー ケティングの一連の流れを身に 着ける～

早嶋 聡史 氏
株式会社 Biz・ナビ&カンパニー
代表取締役社長



「企業におけるイノベー ションの推進力学」

本間 善丈 氏
株式会社ライズ・コンサルティング・グ
ループ
Associate Partner



寺子屋式リーダーシップ対話

「捨てない未来の先の 未来を見据えて」

岩元 美智彦 氏
株式会社 JEPLAN 創業者/取締役 執行役
員会長



「地域貢献とリーダーシッ プ実践」

角谷 英彦 氏
JR九州ホテルズ株式会社代表取締役社長



「未来への実践」

西村 勝 氏
久山町長



「組織を越えたつながりに よる共創と変革」

濱松 誠 氏
One Panasonic 発起人/ONE JAPAN
共同発起人・共同代表



「なんのために勝つのか」

廣瀬 俊朗 氏
株式会社 HiRAKU 代表取締役



「未来創造型リーダ ーシップ」

山崎 大祐 氏
株式会社マザーハウス 代表取締役副社長



「仕事とは 会社とは 経 営とは 人間とは」

吉村 拓二 氏
株式会社ふくや 支援部執行役員部長
第4期碧樹館プログラム卒業生



【 2023年度14期修了生 ～受講を終えて～ 】

本プログラムを通じ、自分自身の「殻」は何でしたか？また、今後どのように向き合っていきたいですか。



九電みらい
エナジー株式会社
川原孝史さん

私にとっての殻は、上司の反対や事業の厳しい状況があった時などに簡単に諦めたり、自ら壁を作っていることでした。その時に、色々な手段を使って本当にやり切ったのかと見つめ直すこと、そして自分の技術が不足していたならば自己研鑽し技術を高めていくことが必要と感じました。もう1つは、部署、会社等の組織の殻を破れていない点です。今後、競争力と魅力ある九州、日本にするためには、外の経営資源を活用しながらブランド力を向上させていくことが必要と感じたので、枠を超えた取組を継続したいです。



佐賀県
古川将大さん

私の殻は「本気になって相手に想いをぶつける」ことでした。チームビルディングを通して、「圧倒的な行動量 (Do)」「熱量(Be)」で自分の考えや意見、想いをメンバーにぶつけ、行動に移さない限りイノベーション・変化を起こすことができないことを学びました。常にアンテナを立てて、周りの意見も大事にしなが、自身の想いや考えを相手に発信し続けることで、自身や周りの行動にも変化を起こしていきたいと思います。自身のBeを大事にし「私にしかできないこと」を実践していきます。



株式会社山口銀行
山根さやかさん

本プログラム参加前までは、主語が「他者」で、その他者から求められることが自分のすべきこと、したいことだと考えており、その結果、行動に熱量が伴っていない状態でした。

本プログラムを通じ自分と向き合えたことで、今後は、「自分ごと」として捉え、「本気で取り組むこと」を継続します。引き続きインプットとアウトプットを行い、職場の垣根を超えた繋がりも持ち続けたいと思います。

【 2023年度14期修了生 ～受講を終えて～ 】

本プログラムを通じ、ご自身の「心持ち」や「行動」、「考え方」等にどのような変化が起きていますか。また、それはなぜそのような変化が起きたとお考えですか



株式会社北九州銀行
木村紘三さん

“開講当時”は困難な状況に遭遇すると「苦しい」という感情が心の中を支配していました。しかし、“今”は自身の源泉・エンジンがハッキリし、「突破する」という感情に満ち溢れています。それは、本プログラムを通じて、自身の「思い」の浅さを痛感し、自身の過去を紐解く中で、「自分とは何者か」「何を成し遂げたいのか」という家族も知らないことを共有し、同期から真剣に意見をもらう機会があったからです。



株式会社西部技研
中村裕美さん

過去は、一時的に感化され、一時的な行動や想いで終わることが多かったですが、今はできる事を行動に移し、途中でやめないで継続を意識している事に変化しました。チームに対して自分が少しでも行動すると良い変化を生むことができるという事も実感できました。一方、継続しないと元に戻る、研修発表のためのものと思われて、期待を裏切る事にもつながりかねないと感じました。大きな変化や意識を変えていくため、この想いを持ち続けて継続していきたいです。



株式会社 九電工
村上拓也さん

私自身の学びの量・時間配分が変わりました。そして自分の人生・キャリアをより具体的にイメージする様になりました。「無知の知」を知る事で自身の中に危機感が生まれて、1回の人生、キャリアを振り返る時に、後悔したくないという意識が強く芽生えたのが理由だと思います。今では、時間を見つけては学びの時間を設ける様にしています。自身に芽生えたこの危機感を学びへのパワーに変える事が唯一の解決策だと思います。

人財の森をつくる。

KAIL

特定非営利活動法人九州アジア経営塾

〒810-0004 福岡市中央区渡辺通2-1-82電気ビル共創館7階

TEL : 092-726-1861 FAX : 092-726-1869

E-mail : info@kail.jp URL : <https://kail.jp>